

大学院特別講義

(医歯学先端研究特論)

下記により大学院特別講義を行いますので、多数ご来聴下さい。

記

- 1 . 講 師 鶴見大学歯学部歯科補綴学第二講座
教授 福島 俊士 殿
- 2 . 演 題 咬合時の下顎位とその記録
- 3 . 日 時 平成23年6月9日(木)
17時00分 ~ 18時30分
- 4 . 場 所 歯科棟南(歯科外来事務棟)4階 特別講堂
- 5 . 内 容

ヒトの歯は硬いとされるが、実はさまざまに磨り減る。ある人はこれを異常ととらえ、修復する歯は磨り減るべきでないとする。しかし、ある人は磨り減るにまかせ、痛みや障害がでないかぎり手を加えるべきでないとする。ヒトの歯が磨り減るとしても、ヒトの顎関節も磨り減るのであるだろうか？ ヒトの顎関節も磨り減ると分かったのは比較的最近のことである。しかし、それを元どおり修復しようとはしない。痛みや障害がないかぎり手を加えない。顎関節を構成する関節円板や下顎頭が変形し位置を変えても手をつけない。われわれはここまで来た。

磨り減った歯や歯のなくなった顎があり、もはや正常とはいえなくなった顎関節がそこにある。我々は、そうした歯や顎を印象して複製模型を作り、そうした顎関節を頼りに上顎の模型と下顎の模型を関連づけている。

連絡先 摂食機能保存学分野 三浦宏之(岡田大蔵)(内線5521)